

世界の核果類市場(要約部分抜粋)

[FreshPlaza](#) 2025年7月11日

2025年の核果類シーズンは、世界の主要産地で、生産、価格設定、市場力学の面で対照的な傾向が目立った。天候の影響、栽培面積の移動及び旺盛な需要は、引き続き生産者と輸出業者の双方にとって結果を形成する要因となっている。

イタリアでは全体的には安定した生産が報告されているが、特に北部地域では収量の減少と価格の上昇が見られる。果樹園の廃園と天候関連の問題により、手に入る流通量に対しては引き合いが強く、価格が上昇している。

スペインでは市況が堅調で、気温の高さが消費を押し上げ、一部の品目では価格が最大60%高くなっている。カタルーニャ州では、降雹の被害にもかかわらず、出荷量は依然として5年間の平均を上回っている。

フランスでは、アンズの出荷量は増加するが、モモの出荷量は減少すると予想される。モモの価格は上昇しているが、夏の気温が需要を支えており、市場は依然として流動的である。

オランダでは、スペインの雹害のため、モモの大幅な不足に直面している。現在の販売量はスモモが多いが、地域市場の動向(産地の切り替えと販売戦略の違い)により価格は約30%下落している。

ドイツでは需要は堅調だが、主にスペインからの供給量の増加により価格が下落している。それより少ない量のイタリア産とトルコ産があり、トルコ産の供給は霜の影響を受けている。

ウクライナでは、特にサクランボとアンズの産地で、降霜と紛争による核果類の大きな損失に見舞われている。国内需要を満たすため輸入が増加している。

トルコでは、ヨーロッパ、アジア、北米からの安定した需要に対し、少ない核果類出荷量でやり繰りしている。地域的な出荷量の変化と物流上の難しさから困難なシーズンとなっているが対応力を見せている。

北米のうちカリフォルニア州では果実の品質の高さと早期の収穫が報告されているが、果実が小玉なため輸出の可能性は限られている。国内市場は引き続き活発で、ジョージア州とカナダでも出荷が始まっている。

南アフリカではまだ核果類の輸入シーズンが始まっておらず、スペインからの最初の荷はまだ輸送中である。現在の卸売価格は、需要の低さと入荷量の少なさを反映している。

モロッコでは、好ましい低温時間と低温要求量の少ない品種の恩恵を受けている。栽培面積は横ばいだが、産地が北に移動し、実の締まった香りの良い果実が主に英国とドイツに出荷されている。

レバノンでは、天候の影響を大きく受け、サクランボの出荷シーズンは短く、輸出量は減少し、国内の価格は倍になっている。輸出業者は、サウジアラビアへのアクセスの回復と、ヨーロッパ及び北アフリカへの拡大に注力している。